

# 海産魚類防疫巡回指導事業

中西 廣義・工藤 敏博・小泉 広明・廣田 将仁・鹿内 満春

## 目 的

海面増養殖での魚病発生時における早期の魚病診断並びに防疫指導の実施により、海産魚類で行われている増養殖の魚病被害の軽減と蔓延防止に努める。

## 材料および方法

### 1 魚病診断

魚病発生時における魚病診断・検査による魚病防疫対策を行った。

### 2 防疫指導

増養殖関係機関を巡回し、防疫指導を行った。

### 3 魚病情報収集

魚病関連会議等に出席し、情報交換及び魚病情報収集を行った。

## 結果および考察

### 1 魚病診断

平成18年度の魚病相談、魚病診断及び検査件数は表1のとおり合計15件で、前年度よりも2件少なかった。魚種別件数で見ると、例年と同様、増養殖対象魚種に関するものが大部分を占めており、クロソイが7件と最も多く、ウスメバルの3件、ヒラメの2件がそれに続いていた。

平成18年度の魚種別、疾病別相談、診断件数は、表2のとおりであり、魚病診断の結果、疾病別ではウイルス性疾病は確認されず、細菌性疾病ではマコガレイとウスメバルで滑走細菌症が見られた。寄生虫性疾病は種苗生産中のウスメバルでイクチオポド症が、ヒラメでスクーチカ症が発生した。ニジマスは津軽海峡で行われている海面養殖用種苗の病原体検査を実施したが、病原体は検出されなかった。昨年、ヒラメの種苗生産初期に連続して発生した腸管白濁症による大量へい死は、今年度は大きな問題とはならなかった。

### 2 防疫指導

県内の増養殖関連施設15ヶ所について巡回指導した(表3)。また、その際に水産用医薬品の適正使用の指導を行った。薬事法改正に伴い、水産用医薬品の使用基準も改正され、その猶予期間も終了したことから、関係者への適正使用を徹底する必要がある。

### 3 魚病情報収集

県魚類防疫会議、魚病症例研究会、北部日本海ブロック魚類防疫対策地域合同検討会、栽培漁業技術中央研修会等の魚病関連会議に出席し、情報交換並びに情報収集した。

表1 平成18年までの最近5ヶ年の魚種別の魚病相談、診断及び検査件数について

魚種名	年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	合計
ヒラメ		8	4	3	3	3	21
クロソイ		8	3	2	3	7	23
マコガレイ			3	2	5	1	11
マダラ			1	2			3
ウスメバル		5		3	4	3	15
キツネメバル			1	1	1		3
ニジマス		3	1	2		1	7
ヌマガレイ		3					3
ボラ		1					1
マハゼ		1					1
マガレイ				1	1		2
クロマグロ			1				1
エゾアワビ			3				3
合計		29	17	16	17	15	94

表2 平成18年における魚病の魚種別、疾病別相談、診断件数について

疾病名	魚種名	ヒラメ	クロソイ	マコガレイ	ウスメバル	ニジマス	合計
リンホシスチス病					1		1
滑走細菌症				1			1
イクチオポド症					1		1
スクーチカ症		2					2
その他寄生虫症			1		1		2
その他		1	6			1	8
合計		3	7	1	3	1	15

表3 防疫巡回指導実績 (平成18年度)

実施日	対象機関・施設	対象魚種
7月25日	青森県栽培漁業センター	ヒラメ
8月10日	青森県栽培漁業センター日本海事業所	ヒラメ
9月4日	青森市水産指導センター	ウスメバル
9月11日	竜飛漁業協同組合ヒラメ生産組合	ヒラメ
9月11日	泊漁業協同組合	マコガレイ
9月12日	小泊漁業協同組合	クロソイ
9月12日	下前漁業協同組合	クロソイ
9月12日	車力漁業協同組合	クロソイ
9月13日	鯉ヶ沢漁業協同組合	クロソイ
9月13日	風合瀬漁業協同組合	クロソイ
9月25日	尻屋漁業協同組合	クロソイ
9月26日	脇野沢村漁業協同組合	クロソイ
10月31日	北彩漁業生産組合	ニジマス
11月27日	大戸瀬漁業協同組合	キツネメバル
2月21日	鯉ヶ沢町(アユ種苗生産施設)	アユ